

B-18 ろうけつ染めの研究 (第6報) ロウ層について

大阪薫英女短大 ○大浦律子 石沢スミ 奈良女大家政 吉川清兵衛

目的 ろうけつ染めにおいて、ロウの充分な防染効果を得るためには、ロウ層を一定の厚さ以上にする事は、前報までに述べたとおりである。充分な厚さを得るために、一般的には、2度描き、3度描きといったロウを重ねる方法が行なわれている。この場合重ねられたロウは、互いに融着しなければならない。著者らは2層のロウが融着するためには、ロウ描き時の温度条件、比熱、凝集力、融点(凝固点)などの要因が関係すると考え、これらの測定を行ない、ロウ描きの回数と厚さの関係を検討し、これら要因との関連を考察した。

実験 試料は前報同様、市販の白ロウ、木ロウ、パラフィンを使用し、ロウ描き布のロウの表面温度の経時変化は、サーミスターを用いて測定した。また混合法により比熱を測定し、凝集力は表面張力の測定により算出し、融点、凝固点は毛細管法により測定した。一方、ロウ層のモデルを作製し、2層目のロウの温度が1層目のロウの温度におよぼす影響を測定した。

結果 ロウ描きを重ねた場合のロウ層の厚さの増大は、白ロウ、木ロウに比べパラフィンに顕著にみられた。これについては、比熱、凝固点が、パラフィン>木ロウ>白ロウであり、凝集力は、白ロウ>木ロウ>パラフィンであった。これらの結果がパラフィン、木ロウ、白ロウの厚さに関係があるのではないかと考えられる。またこの傾向は、2層目のロウの温度が、1層目のロウの温度におよぼす影響についても同様なことはいえる。